

# キハダ 大西洋

Yellowfin Tuna, *Thunnus albacares*



### 管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

### 最近の動き

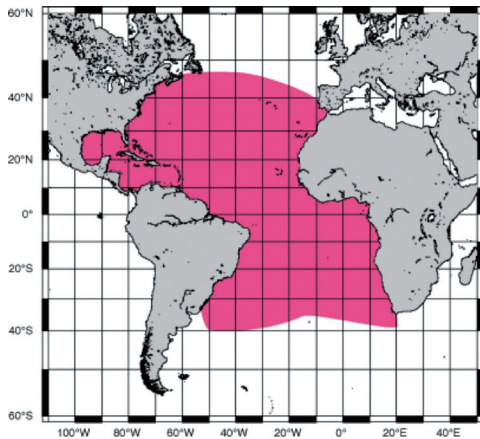
2014 年の総漁獲量が ICCAT により予備集計された。資源評価は 2011 年 9 月に ICCAT により行われた。

### 生物学的特性

- 体長・体重：尾叉長 2.0 m・200 kg
- 寿命：7～10 歳
- 成熟開始年齢：3 歳
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：分布域に等しい
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

### 利用・用途

刺身、すし、缶詰など



大西洋におけるキハダの分布域

### 漁業の特徴

漁業は 1950 年頃に始まり、1955 年頃からは竿釣り及びはえ縄が開始した。当初から 1970 年代初め頃までははえ縄が主体であったが、1980 年頃からはまき網が主体となっている。最近年は、全漁獲量のうち 70% がまき網、11% が竿釣り（大部分が東部大西洋）、16% がはえ縄で漁獲されている。主な漁業国はフランス、スペイン、ガーナである。日本は、はえ縄でメバチを主対象として漁獲している。フランスとスペインはまき網、ガーナは竿釣りが主体である。漁場は熱帯域を中心に広く分布し、まき網と竿釣りではギニア湾が主漁場である。漁業は周年行われている。

### 漁獲の動向

漁獲量は、当初から 1970 年代までは概ね増加傾向にあり、1980 年以降は 10 万～19 万トンの中で変動し、2014 年は 10.4 万トン（予備集計）であった。

### 資源状態

最新の資源評価は 2011 年に ICCAT によりプロダクションモデルと年齢別モデルで行われた。MSY は ASPIC（プロダクションモデル）で 14.0 万トン（11.4 万～15.0 万トン）、VPA（年齢別モデル）で 14.9 万トン（14.0 万～15.8 万トン）と推定された。2014 年の総漁獲量は 10.4 万トン（予備集計）で前年の 102% であり、MSY を下回っている。資源量は MSY レベルより小さい ( $B_{2010}/B_{MSY}=0.85$  (0.61～1.12)) と見られ、中位、横ばいと判断される。前回（2006 年）の資源評価より悲観的な結果である。最近年（2010 年）の漁獲圧は、MSY レベルより小さい ( $F_{2010}/F_{MSY}=0.87$  (0.68～1.40)) と推定された。しかしながら、資源評価の不確実性を考慮すると、2010 年に乱獲状態でなく、かつ漁獲圧が過剰でなかった可能性は 26% と低い。1970 年以降の経年的な産卵資源量の変動、最近年のはえ縄 CPUE の変動から、最近年は歴史的に中位から低位の産卵資源量であり、横ばいからやや上昇傾向の変動を示しているため、資源水準、動向は中位、横ばいと判断できる。

### 管理方策

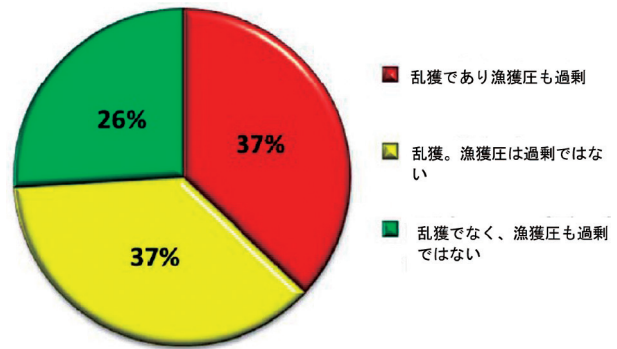
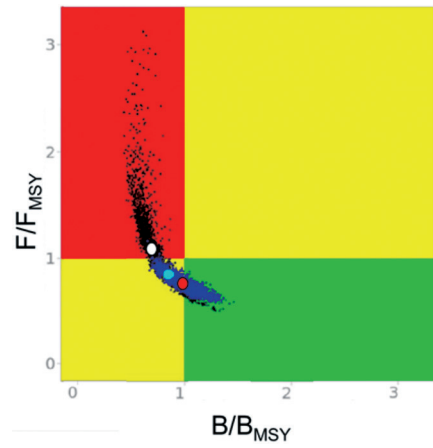
ICCAT により、さらなる努力量の増加は、資源量を減らす危険性があり、本種とともに漁獲される種（特にメバチ）にも悪影響を与える懸念があることが指摘され、1993 年に有効漁獲努力量は 1992 年レベルを超えないようにすることが勧告された。また、幼魚、小型魚の保護のためにギニア湾におけるまき網の 1～2 月の FADs 操業禁止、全海域における大型漁船の厳密な隻数規制が導入された。毎年の TAC は 11 万トンに設定された。

### 資源評価のまとめ

- 2011 年に資源評価。プロダクションモデルと年齢別モデル。
- MSY は 14.5 万トン (11.4 ~ 15.5 万トン)。2014 年の漁獲量は 10.4 万トン。
- 2010 年の資源量は MSY レベルより小さい ( $B_{2010}/B_{MSY}=0.85$  (0.61 ~ 1.12))
- 最近年 (2010 年) の漁獲率は、MSY レベルより小さい ( $F_{2010}/F_{MSY}=0.87$  (0.68 ~ 1.40))

### 管理方策のまとめ

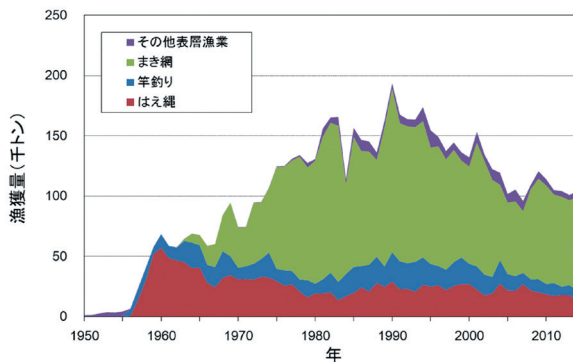
- TAC (11 万トン)
- メバチ・キハダの幼魚の保護 (ギニア湾における FADs を利用するまき網の禁漁期、禁漁区域、1 ~ 2 月の FADs 操業禁止)



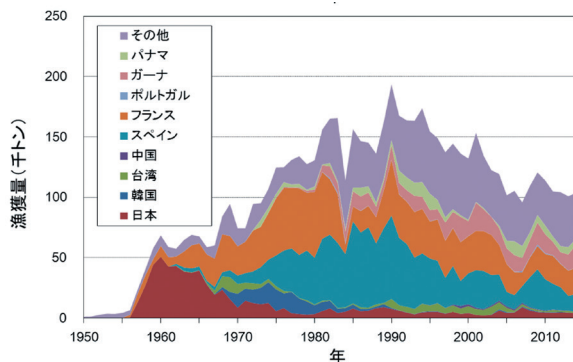
大西洋キハダの資源解析結果 (ICCAT 2013)

上：非平衡プロダクションモデルと VPA (2-BOX) による解析当時の最新年 (2010 年) の資源状態。下：不確実性を考慮した 2010 年の資源状態 (不確実性を考慮した。各ブートストラップ点の分布状況)

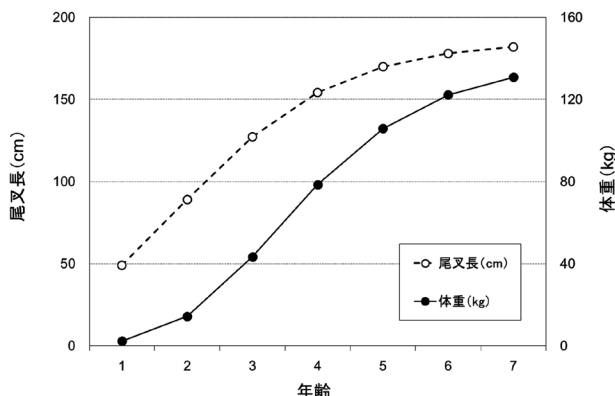
上図の縦軸は漁獲率、横軸は資源量で現状/持続可能な値の比で示してある。黒色、青色の小さな丸は、一つ一つがブートストラップ解析の結果で、それぞれプロダクションモデル、VPA の結果を示している。白色の丸と赤色の丸は、それぞれのブートストラップ結果の中央値。水色の丸は、2つのモデルの全てのブートストラップ結果の中央値。



大西洋におけるキハダの漁法別漁獲量



大西洋におけるキハダの国別漁獲量



大西洋におけるキハダの成長

### キハダ (大西洋) の資源の現況 (要約表)

資源水準	中 位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	10.1 万 ~ 11.4 万トン 平均：10.6 万トン (2010 ~ 2014 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	0.4 万 ~ 0.5 万トン 平均：0.5 万トン (2010 ~ 2014 年)
最新の資源評価年	2011 年
次回の資源評価年	2016 年